

医療用ガーゼにも登録、2022年には独デュッセルドルフでの世界的医療機器の展示会に出展予定

ナファ生活研究所

ナファ生活研究所(渋谷区千駄ヶ谷、相田雅彦代表取締役社長、03・5412・7661、<http://www.nafa-take.com/>)は、竹繊維を用いた商品の製造・卸売・販売業を営んでいる。「竹の繊維で糸を紡ぎ、生地にして、傷にそっと寄り添うガーゼをつくる」との想い一筋に1999年より開発が始まったのが、竹原料100%のTAKEFU(竹布)という繊維だ。抗菌性、消臭性、制電性、吸湿・吸水性、温熱効果に優れ、2001年の第1号商品以来、20年の歳月をかけて約300種の商品を産み出した。

コロナ禍ではこのTAKEFU U(竹布)を用いたマスクを開発。抗菌性に優れ、洗って何度でも使え、洗うほどに優しく肌に馴染むことから、「肌が荒れる」「息苦しい」「蒸れる」といったマスクを着用した際の悩みを解決できる商品となっており、肌トラブルだけでなく、肌や喉の保湿として美容や予防のためにも愛用される方も多い。

2022年の秋にはドイツの



ナファ生活研究所本社



相田雅彦代表取締役社長



TAKEFU(竹布)を用いた「うるおいマスク」

デュッセルドルフで行われるMEDICAという医療機器の展示会への出展を予定している。2006年4月にアメリカのサンタモニカで開催されたLOHAS10以来の海外でのお披露目となる。原料の竹の育成から製品までを生産する繊維業界では世界でも稀な企業といえる。「2001年の抗菌力の発見によりその役目が決まったTAKEFU繊維。20年の熟成の時を経て、いよいよスタートラインに立つ時が近づいている。医療・衛生材料の分野を中心に、衣・食・住において、竹を活用した地球環境改善プロジェクトに着手する時が来た」と相田社長は語る。